



パーソナルプリポストプロセッサ

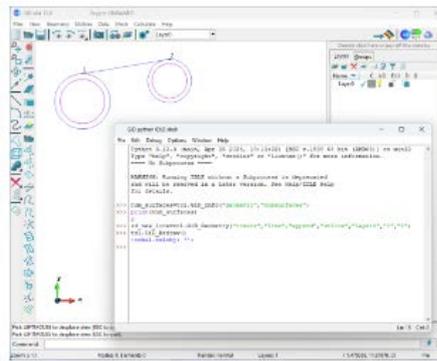
GiD

Version 17

リリースノート

一般

- ✓ Tohil パッケージによって GiD は Python スクリプトを実行できるようになり、Python スクリプトから Tcl コマンドを呼び出して GiD データを操作できるようになりました。詳細については、[こちら](#)をご確認ください。



- ✓ macOS 14 Sonoma をサポートしました。

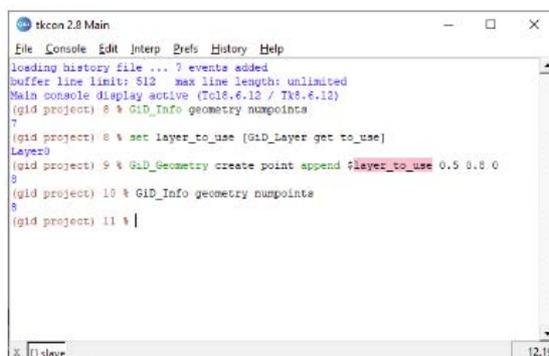


- ✓ GiD のタスクバーのアイコンメニューに、最近開いたモデルが表示されるようになりました。
(Windows 版のみ)



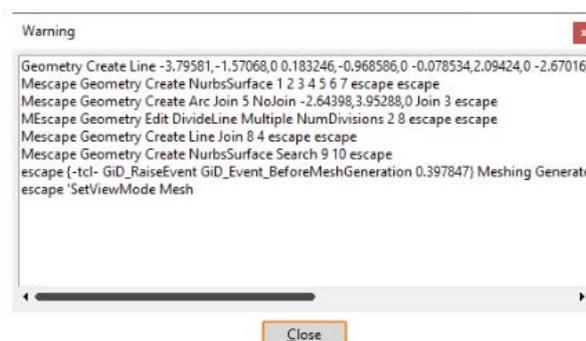
- ✓ 使用者以外が.lck ファイルを開いた際には、読み取り専用としてモデルが読み込まれ、保存する際には別名で保存する必要があります。

- ✓ Tkcon コンソールパッケージが追加されました。(Utilities-Tools-Develop-Console Tcl)



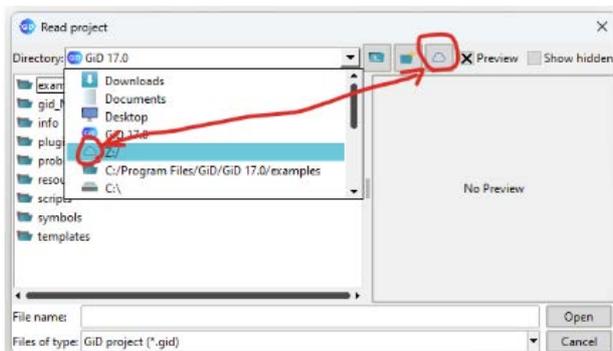
```
tkcon 2.8 Main
File Console Edit Interp Prefs History Help
loading history file ... 7 events added
buffer line limit: 512 max line length: unlimited
Main console display active (Tcl8.6.12 / Tk8.6.12)
(gid project) 8 & GiD_Info geometry numpoints
7
(gid project) 9 & set layer_to_use [GiD_Layer get to_use]
Layer0
(gid project) 9 & GiD_Geometry create point append <layer_to_use> 0.5 0.0 0
0
(gid project) 10 & GiD_Info geometry numpoints
8
(gid project) 11 & |
```

- ✓ スクリプト開発のために利用されるプロセスコマンドの表示/非常時が制御できるようになりました。(Utilities-Tools-Develop-Show process commands)

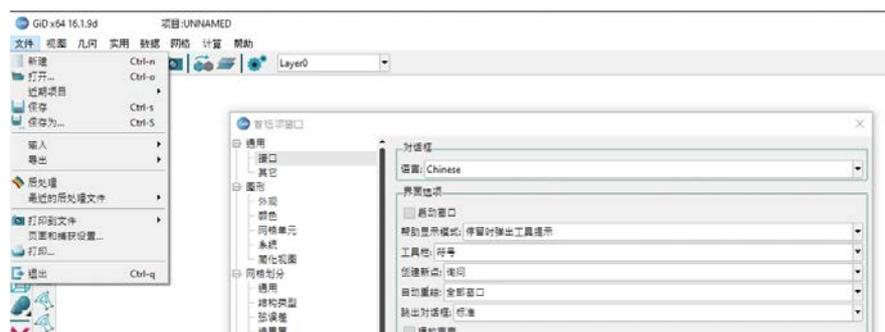


- ✓ Tcl パッケージを<GiD>/scripts にダウンロードするための新しいカテゴリ“packages”が実装されました。

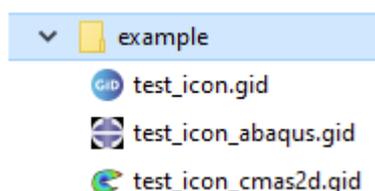
- ✓ ファイルブラウザがネットワークにアクセスする際の挙動が高速化されました。ローカルに同期されたクラウドフォルダがあればブラウザに表示されるようになりました。



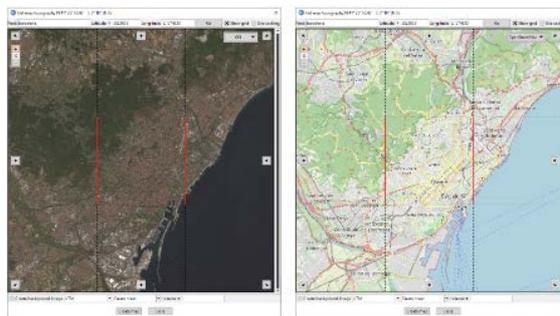
- ✓ リファクタリングにより、ポストプロセス設定は標準の GiD 変数に変換され、その他の変数は配列構文 OGL_*、Color*、BackColor*、PGF_*、VR_* → OGL(*)、Color(*)、... でグループ化されるように変更されました。
- ✓ XYビューが progressive animation で表示できるように変更されました。
- ✓ エンティティの選択機能が強化されました。新しい設定“ SelectionOnlyVisible”は OpenGL の選択メカニズムによって、表示されているエンティティのみが選択できます。
- ✓ 軸上にカーソルを合わせると軸がアクティブカラーで表示され、この状態でクリックすると軸に沿ってビューを回転することができるようになりました。
- ✓ 言語設定に中国語がサポートされました。



- ✓ ジオメトリエンティティのメッシュの関連性を切り離す新しいメッシュ編集関数が追加されました。また、メッシュの作成時またはメッシュの読み取り時に自動的にジオメトリとの関連性を切り離す、新しい GiD 変数“DetachMeshFromGeometry” が追加されました。
- ✓ .gid プロジェクトフォルダのカスタムアイコンが表示できるようになりました。(Windows 版のみ)
また、プロブレムタイプは.ico ファイルを指定することができます。

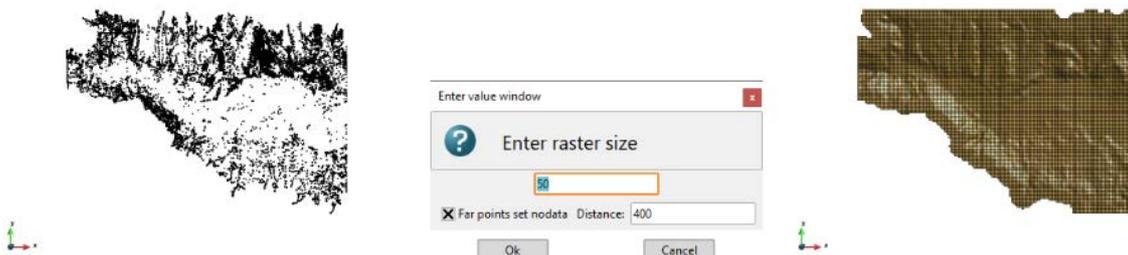


- ✓ 地形をインポートするプラグインが、IGN(スペイン国立地理情報センター)から画像を取得できるようになりました。



プリプロセス

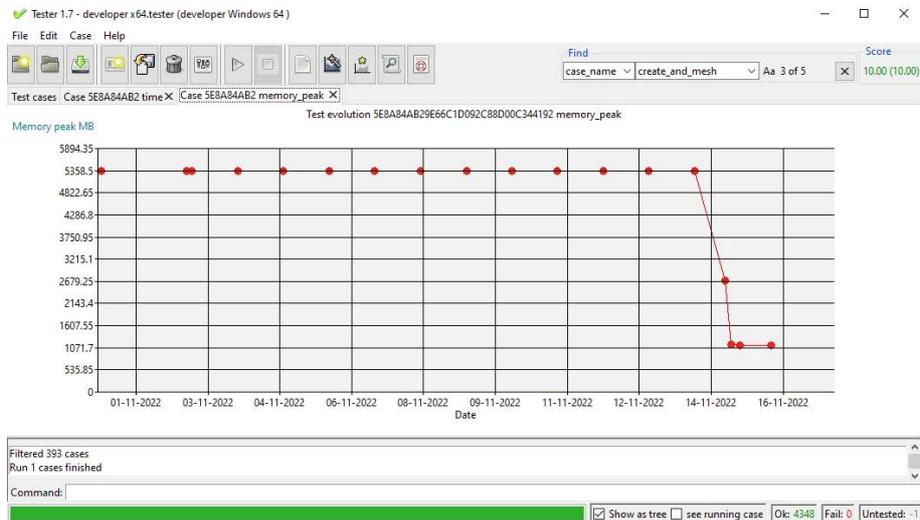
- ✓ GIS::`GetRasterFromNodes` と GIS::`GetRasterFromTriangles` に、遠距離のグリッドポイント (nodata として設定) を回避するための追加パラメータ `far_points_set_nodata` と `far_points_distance` が追加されました。ノードからラスタジオメトリやメッシュを作成する関数で使用されます。例えば、イメージのようにノードの 400 ユニットから遠いグリッドポイントはセルを生成しません。



- ✓ メッシュのインポートとエクスポートに Meshio プラグインがサポートされました。

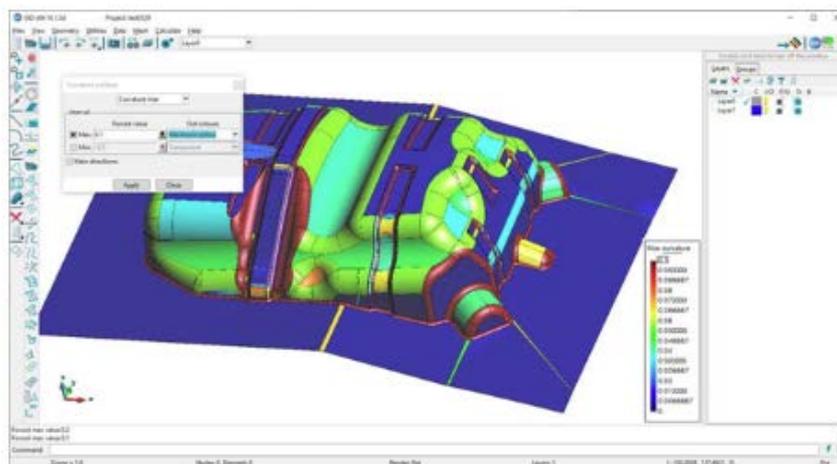


- ✓ メッシュの前処理において、レンダリングを補助するデータの拡張コンテナが強化されました。ジオメトリエンティティのメッシュではメモリとCPUの負荷が大きくなりすぎていました。

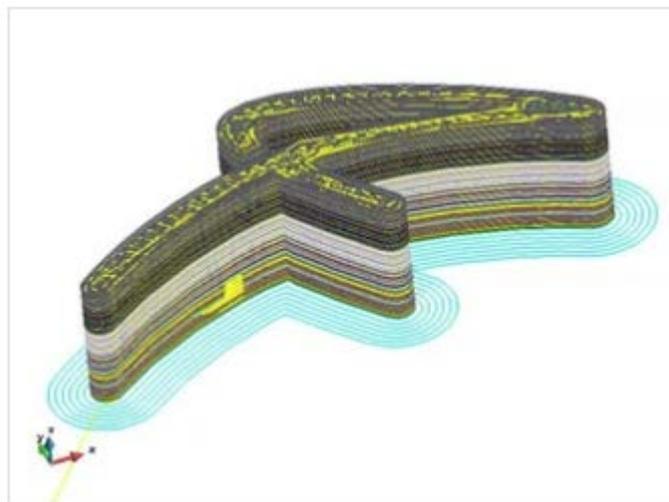


(e.g. model with 100000 surfaces and 200000 triangles spend 5GB → now 1GB)

- ✓ IFC インポートが IFC4x3 standard バージョンに更新されました。
- ✓ ACIS .sat インポートが強化され、より多くのエンティティがサポートされました。また、ACIS .sab バイナリのインポートが暫定的に実装されました。
- ✓ DXF インポートにおいて、.sab ボリュームをエンコードできるようになりました。
- ✓ サーフェスの曲率ツールが強化され、リミットとアウト・カラーを設定できるウィンドウが実装されました。また、パフォーマンスも向上しています。

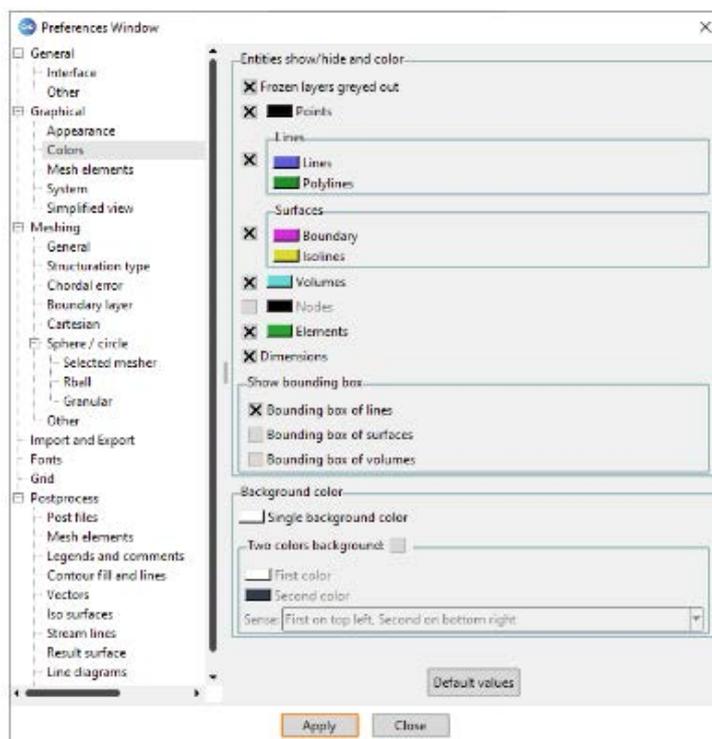


- ✓ Gコードインポートプラグインのアニメーションが強化されました。(Gコードはコンピュータ数値制御プログラミング言語で、3DプリンターやCNCフライス盤などに使用されます。)



- ✓ 複数のポリラインが作成できるようになりました。
- ✓ GiD メッシュのエクスポートにおいて、ジオメトリックエンティティによるメッシュまたは要素タイプによる単独のメッシュを書き込むための新しいオプション `-export_mesh_by_entities` が実装されました。
- ✓ Rhino OpenNurbs ライブラリが v6 から v8 に更新されました。
- ✓ Abaqus インポートプラグイン 0.5 となり、高速化されました。またピラミッド要素に対応しました。
- ✓ コピー/移動ではローカル軸が保持されるようになりました。また、ミラーではサーフェスの向きが入れ替わるようになりました。
- ✓ Tetgen メッシャーを v1.6 にアップデートしました。
- ✓ メッシュの作成されたジオメトリエンティティをグループ化する際に、メッシュも合わせてグループ化されるようになりました。

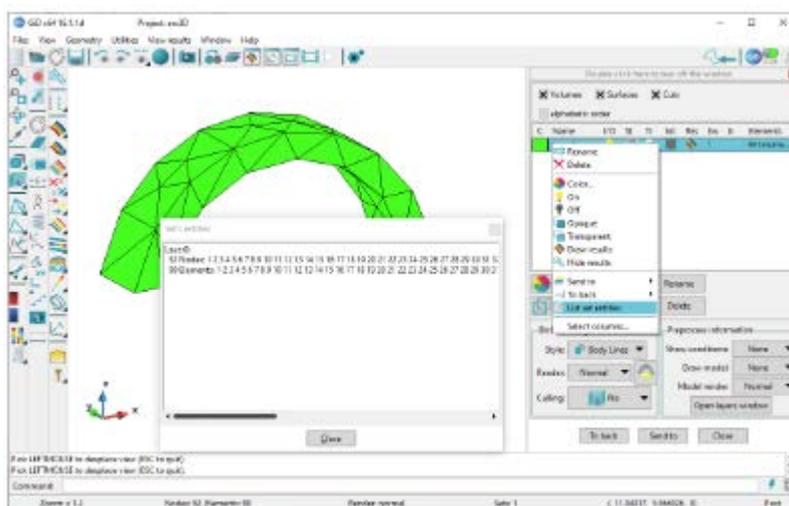
- ✓ 全種類のエンティティの表示とバウンディングボックスの設定に関する変数が、プリファレンスウィンドウに表示されるようになりました。



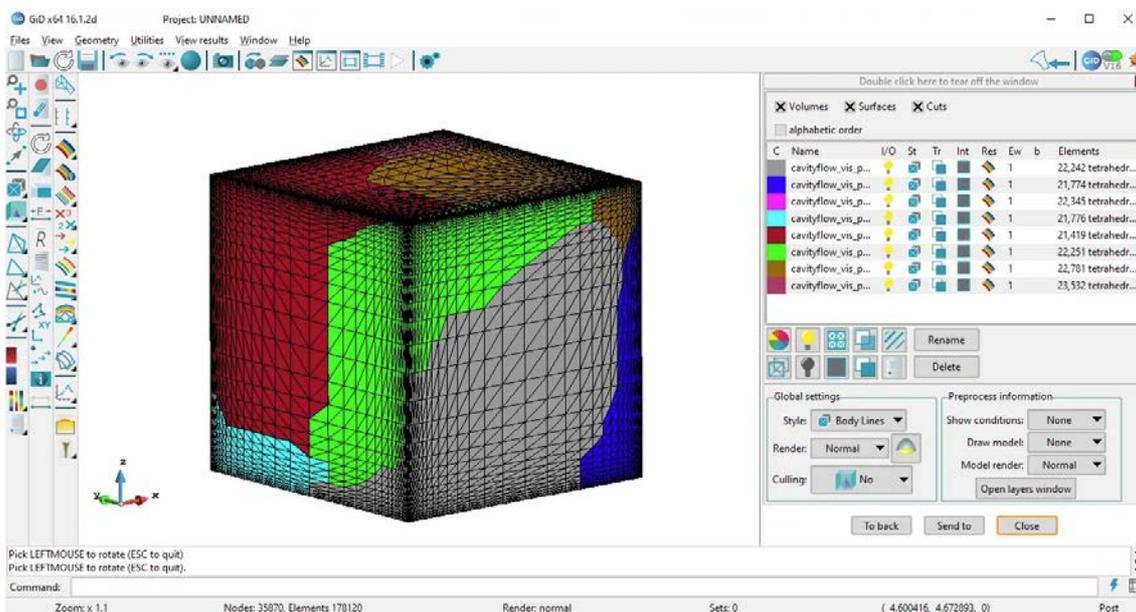
- ✓ Tetgen メッシャーで強制ポイントを指定できるようになりました。

ポストプロセス

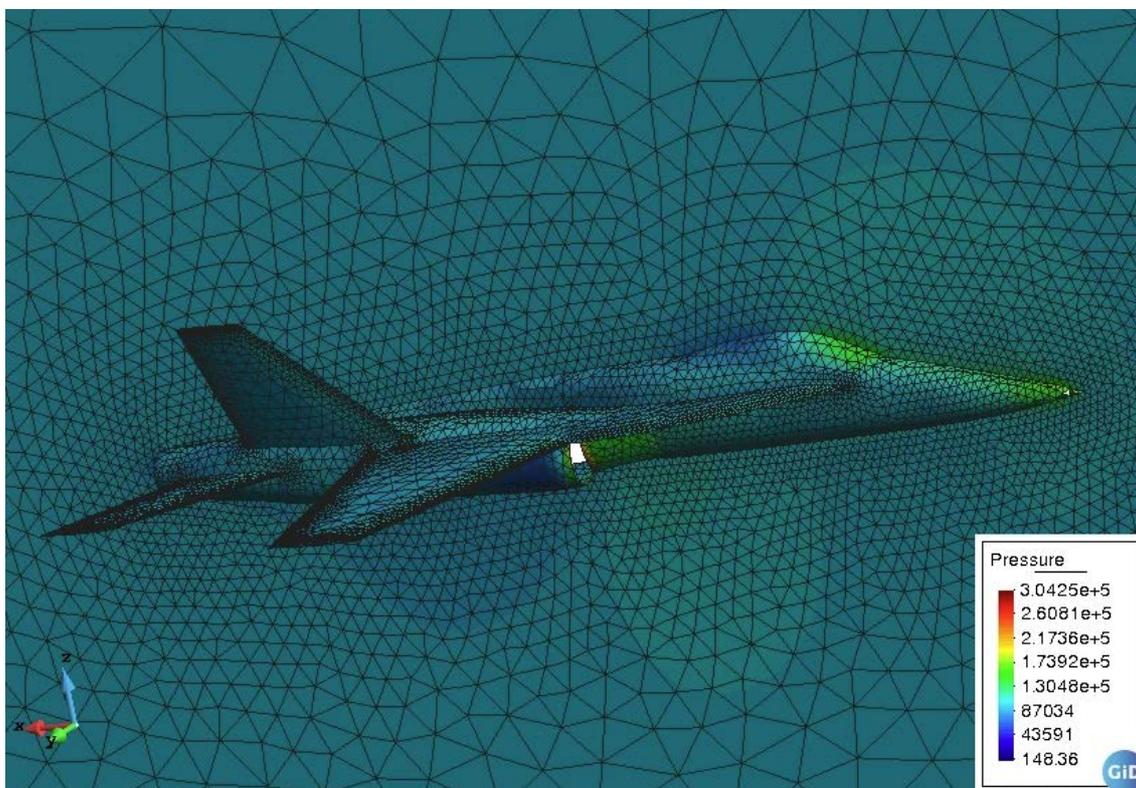
- ✓ ボタン、もしくはコンテキストメニューから、選択したセットのエンティティが一覧できるようになりました。



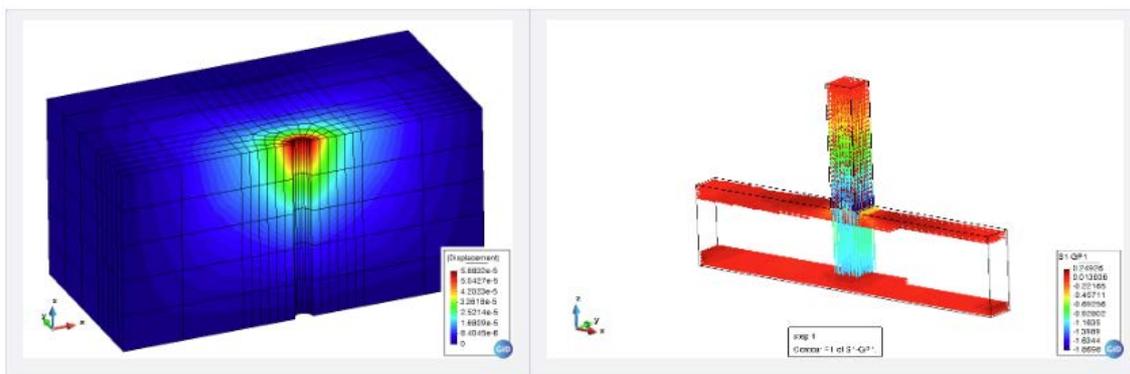
- ✓ Vtk インポート 1.10 では、6 つのコンポーネントで定義された結果マトリックスを使用できるようになり、複数の Paraview .pvtu と .pvd ファイルを読み込めるようになりました。



- ✓ ポストプロセスにおいて、CGNS フォーマットのメッシュや結果のインポートに対応しました。



- ✓ ポストプロセスにおいて、.fil フォーマットの Abaqus データのインポートに対応しました。解析用に Pybaqus Python パッケージを利用するプラグインとして実装されています。



- ✓ 二次要素上の線グラフでは、線形エッジだけでなく、二次エッジと内部エッジも使用するようになりました。
- ✓ ビュースタイルウィンドウにおいて、single/multiple セットや on/off の切り替え時の更新頻度が少なくなりました。
- ✓ File – Save as コマンドで HDF5 ファイルを保存する際に、単精度/倍精度の出力オプションが追加されました。

カスタマイズ

- ✓ カスタマイズに関する更新は[こちら](#)をご参照ください。